

山鹿素行

2016 年追試

問 4 江戸時代の儒学者についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 

23
----

- ① 雨森芳洲は、堪能であった朝鮮語の能力を生かして朝鮮使節を応接するとともに、外交関係の構築には誠意と信頼を根本とした「誠信」が重要であると説いた。
- ② 新井白石は、文治主義による政治の実践に関わるとともに、密入国したイタリヤ人宣教師への尋問を通して、世界の地理やキリスト教に関する新たな知識を摂取した。
- ③ 山鹿素行は、朱子学で説かれる理を観念的なものと批判し、古典の言葉を正確に理解する古学の方法によって、六経に記された先王の道を学ぶべきであることを主張した。
- ④ 伊藤仁斎は、『論語』や『孟子』に説かれた言葉を、朱子の注釈に <sup>よ</sup> 拠らずに熟読して深く理解しようとする古義学を唱え、「忠信」の実践による「仁愛」の実現を強く求めた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	23	③	3

2014 年追試

問 4 次のア～ウは，儒学に基づいて生きることを主張した江戸時代前期の思想家についての説明であるが，それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 23

ア 孝に，人倫関係を成り立たせている根本原理を見だし，すべての人が儒学を学び実践すべきだと主張した。

イ 敬と義を重視して君臣関係のあるべき姿を論じるなど，厳格に朱子の教えを守って生きるべきだと主張した。

ウ 武芸を重んじ学問を軽んじる当時の武家の風潮に対し，武士は，儒学に基づき，為政者としての役割を果たすべきだと主張した。

- |   |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 山崎闇斎 | イ | 中江藤樹 | ウ | 熊沢蕃山 |
| ② | ア | 山崎闇斎 | イ | 山鹿素行 | ウ | 中江藤樹 |
| ③ | ア | 中江藤樹 | イ | 山崎闇斎 | ウ | 山鹿素行 |
| ④ | ア | 中江藤樹 | イ | 熊沢蕃山 | ウ | 山崎闇斎 |
| ⑤ | ア | 熊沢蕃山 | イ | 中江藤樹 | ウ | 山鹿素行 |
| ⑥ | ア | 熊沢蕃山 | イ | 山鹿素行 | ウ | 中江藤樹 |
| ⑦ | ア | 山鹿素行 | イ | 山崎闇斎 | ウ | 熊沢蕃山 |
| ⑧ | ア | 山鹿素行 | イ | 熊沢蕃山 | ウ | 山崎闇斎 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	23	③	3

2011 年本試

問5 善行の社会的な側面をも重視する近世の思想家もいた。次のア～エはそれらの思想家の説明であるが、それぞれ誰だれのことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

ア 古代中国の聖人が制作した儀礼・音楽・刑罰・政治などの制度こそが、天下を安んずるための「道」であるとし、心の修養を求めることよりも、具体的な「道」を学び実践することによる効果の方が重要であると説いた。

イ すべての人々が田畑を耕して衣食住を自給する平等社会を、理想的な「自然世」と呼んだ。そして、みずから耕さずに農民に寄生している武士などが存在する当時の差別社会を「法世」と呼び、「自然世」への復帰を説いた。

ウ 名を求め、恥を知るという心のあり方を重んじる中世的な気風の武士道を批判し、儒学に基づく武士道としての「士道」を説いた。そして、武士は道徳的な指導者となって人倫の道を天下に実現すべきであると主張した。

エ アヘン戦争で清がイギリスに敗北したことに衝撃を受け、西洋諸国に対抗するためには科学技術の移入が必要であると考えた。そして、「東洋道徳」とともに「西洋芸術」をも詳しく学ぶべきであると主張した。

- |          |        |        |         |
|----------|--------|--------|---------|
| ① ア 荻生徂徠 | イ 安藤昌益 | ウ 山鹿素行 | エ 佐久間象山 |
| ② ア 安藤昌益 | イ 山鹿素行 | ウ 荻生徂徠 | エ 高野長英  |
| ③ ア 山鹿素行 | イ 安藤昌益 | ウ 荻生徂徠 | エ 佐久間象山 |
| ④ ア 山鹿素行 | イ 荻生徂徠 | ウ 安藤昌益 | エ 吉田松陰  |
| ⑤ ア 荻生徂徠 | イ 山鹿素行 | ウ 安藤昌益 | エ 高野長英  |
| ⑥ ア 安藤昌益 | イ 荻生徂徠 | ウ 山鹿素行 | エ 吉田松陰  |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問5	18	①	3

2010 年追試

問 4 近世初頭，ふさわしい武士のあるべき姿について説いた思想家に山鹿素行がいる。素行のその主張を表した文章として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

17
----

- ① 上の身分の者がいなければ下を責め立てて取るおごった欲もなく，下の身分の者がいなければ上に <sup>へつら</sup> 諂<sup>へつら</sup> いたくらむこともない。したがって，恨み争うこともないのである。
- ② 武士道というものは死ぬことである。生か死かを選ばざるを得ない場面で早く死ぬ方に片づくばかりである。別にこれといった子細はない。腹をすえて進むのである。
- ③ 武士は農工商の仕事を差し置いてもっぱら人倫の道に努め，農工商の人々の間にいやしくも人倫を乱す者があれば速やかに処罰して，そうして天下に正しい人倫を保つのである。
- ④ 武士はもとより地位のある臣である。農民は在野の臣である。商工民は町中の臣である。臣として主君を助けるのは臣の道である。商人が売買するのは天下の助けなのである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	17	③	3

2008 年本試

問 1 文章中の 13 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

江戸時代になると、戦場での自尊の気風は、死闘の否定を通じて反省され、仕立て直されていった。戦国武士のあり方を批判して、儒教倫理に基づく士道を主張した 13 はその一例である。

- ① 藤原惺窩                      ② 荻生徂徠  
③ 新井白石                      ④ 山鹿素行

問 4 次の『葉隠』の文章を読み、その趣旨に合致する記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 17

意見の仕様、大いに骨を折ることなり。人の上の善悪を見出すは安き事なり。それを意見するも安き事なり。大かたは、人のすかぬ\*云ひにくき事を云ふが親切の様に思ひ、それを請けねば、力に及ばざる事と云ふなり。何の益にも立たず。人に恥をかゝせ、悪口すると同じ事なり。我が胸はらし\*\*に云ふまでなり。意見と云ふは、……先づよき処を褒め立て、気を引き立つ工夫を砕き、渴く時水呑む様に請け合せ、疵直るが意見なり。

\*すかぬ：好まない。

\*\*胸はらし：胸中に積もった思いを晴らすこと。鬱憤を晴らすこと。

- ① 相手に敬意をもつからこそ、相手への徹底的な配慮に基づき、相手が腹の底から納得するよう意見することが必要である。  
② 相手に敬意をもつからこそ、相手が好むと好まざるとにかかわらず、相手の善悪について客観的に意見することが必要である。  
③ 相手に敬意をもつからこそ、己が正しいと信じる善悪に従って意見し、それが通じなければ相手に見切りをつけることが必要である。  
④ 相手に敬意をもつからこそ、己の立場と相手の立場とが折り合いのつく地

点まで相互に意見し合うことが必要である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問1	13	④	2
第3問	問4	17	①	3

2004 年追試

問 3 山鹿素行の主張として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

22

- ① 聖人は、言葉だけでは人を教えるのに不十分であることを知っており、礼楽を制作して、それによって教え導き、人を感化しようとしたのである。
- ② 農民は草莽そうもぼうの臣であり、商工は市井の臣である。臣として君を補佐するのが臣の道であり、商業活動も君が天下を治めることの補佐である。
- ③ 天が上にあり地が下にあるのが、天地の礼である。その天地の礼が人に生まれつき備わっているので、上下前後の秩序が成立するのである。
- ④ 学問して道を知ろうとするならば、まず漢意からごころをきれいに取り除かなければならない。そうでなければ、古書を読んでも古いにしえの意ごころは分からない。
- ⑤ 忠や義は、万民誰だれもがなすべきことだが、農工商は職業上余裕なき生活を送っているので、士が代わりに人倫を正す義務を有するのである。
- ⑥ 毎朝毎夕、心を正しては死を思い死を決し、いつも死身しにみになっていれば、武士道と我が身が一体化し、家職を全うすることが可能となる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	⑤	3

2002 年追試

問 3 武家社会の慣習は、もともと「兵<sup>つわもの</sup>の道」「武者の習」などと呼ばれていたものである。山鹿素行は、これらをふまえて、儒教思想にもとづく「士道」論を唱えた代表的な思想家である。その思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 宇宙の秩序から見れば、武士は「上下定分の理」において常に上位に位置する尊い存在であり、政治に携わる者として、自ら身をつつしむ「敬」を大切にすべきだと説いた。
- ② 武士は、主君への「忠」、朋輩<sup>ほうばい</sup>への「信」、独りを慎む「義」を大切にすべきだが、さらにそれらを通して、農・工・商の三民を教導する道德上の模範であるべきだと説いた。
- ③ 「武士道と云<sup>い</sup>ふは死ぬ事と見つけたり」とする立場から、武士の務めは、ひたすら主君のことを思い続け、たとえその思いが伝わらなくても、主君のためにいつでも死ぬ覚悟をもつことだと説いた。
- ④ 武士の理想は、「御家<sup>おいえ</sup>」に代々仕えてきた「譜代」において極まるとする立場から、いかなる主君のためにも「御家の犬」となって徹底的に献身することが、武士の根本の生き方であると説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	23	②	3